

第2章 転倒・転落の実態調査概要

第1節 調査の目的

転倒・転落が予想される患者のアセスメントのあり方、また転倒・転落に対する物的環境の側面からの対策を検討するため、協力病院（5施設）からの転倒・転落事例の収集を行い、分析を実施した。

本調査では、(1)患者の状態（患者のアセスメント）と転倒・転落の関係の把握・分析、(2)物的環境と転倒・転落の関係の把握・分析を実施することを目的としている。主に調査票を用いて転倒・転落事例を収集したが、転倒・転落にいたった患者の状態の詳細や、物的環境を把握するため、分担研究者・研究協力者・調査委託先による訪問・聞き取り調査もあわせて実施した。なお、調査票には転倒・転落が発生した状況を、外的環境との関連で可能な限り具体的に把握するため、病棟の図面をつけて発生場所を確認したほか、発生した現場の写真も添付してもらった。

従来の医療安全対策で十分に検討が行われてこなかった物的環境の側面から検討を加えることは、厚生労働行政においても重要な研究になるものと思われる。

第2節 定義

転倒・転落の定義については、本調査では、「本人の意思と無関係に床等に体が触れること」と広く定義し、各医療施設の実態に合わせた。収集した事例の「転倒」と「転落」の別についても、現場での分類を尊重し、調査票の記入通りとした¹。なお、「転倒」「転落」について、各医療施設では、特に明確な定義はないということであった。

なお、各医療施設が用いているインシデントレポート、アクシデントレポート及び、転倒・転落のアセスメントシートは資料編（資料2、3）に掲載している。

第3節 調査方法

1. 手順

本研究は、(1) 転倒・転落事例を把握するために現場の写真付き調査票調査（前向き調査）と、各事例の詳細を把握するため、また事例が生じた物的環境を把握するための(2) 訪問・聞き取り調査からなる。

2. 調査対象医療施設の概要

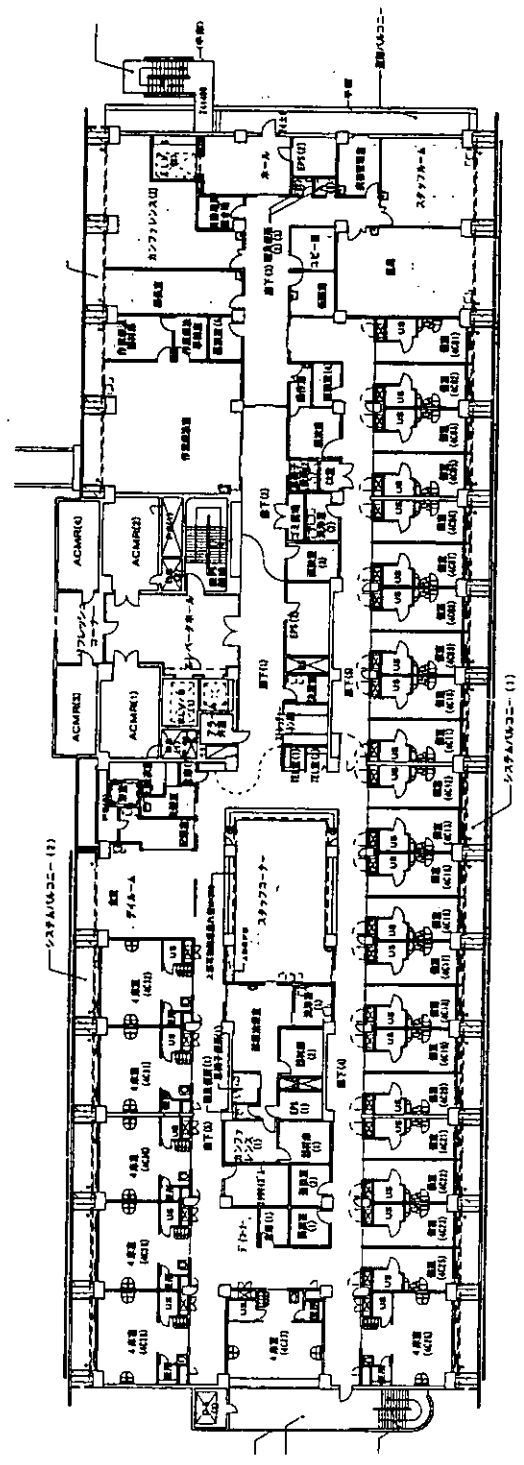
(1) 対象病棟・病棟設立年・病床数・平均在院日数

医療施設名	病棟名（診療科）	病棟 設立年	病床数	平均在院日数	
				病棟別	病院全体
A 病院	精神科	2000 年	50 床	59.0 日	14.3 日
	循環器・心臓外科		19 床	13.5 日	
	呼吸器科・ペインクリニック		46 床	15.5 日	
B 病院	内科系	1985 年	49 床	19.2 日	17.5 日
	脳外科・整形外科系		48 床	30.5 日	
C 病院	脳外科	1975 年	40 床	13.5 日	16.0 日
D 病院	神経内科	1970 年	43 床	29.3 日	19.3 日
	整形外科		53 床	28.3 日	
	内科系		53 床	27.0 日	
	外科系		53 床	22.4 日	
E 病院	循環器内科	1981 年	43 床	9.4 日	14.3 日
	外科系		49 床	14.6 日	
	脳神経外科・神経内科	1978 年	52 床	17.2 日	
	消化器内科・腎臓内科		52 床	16.2 日	

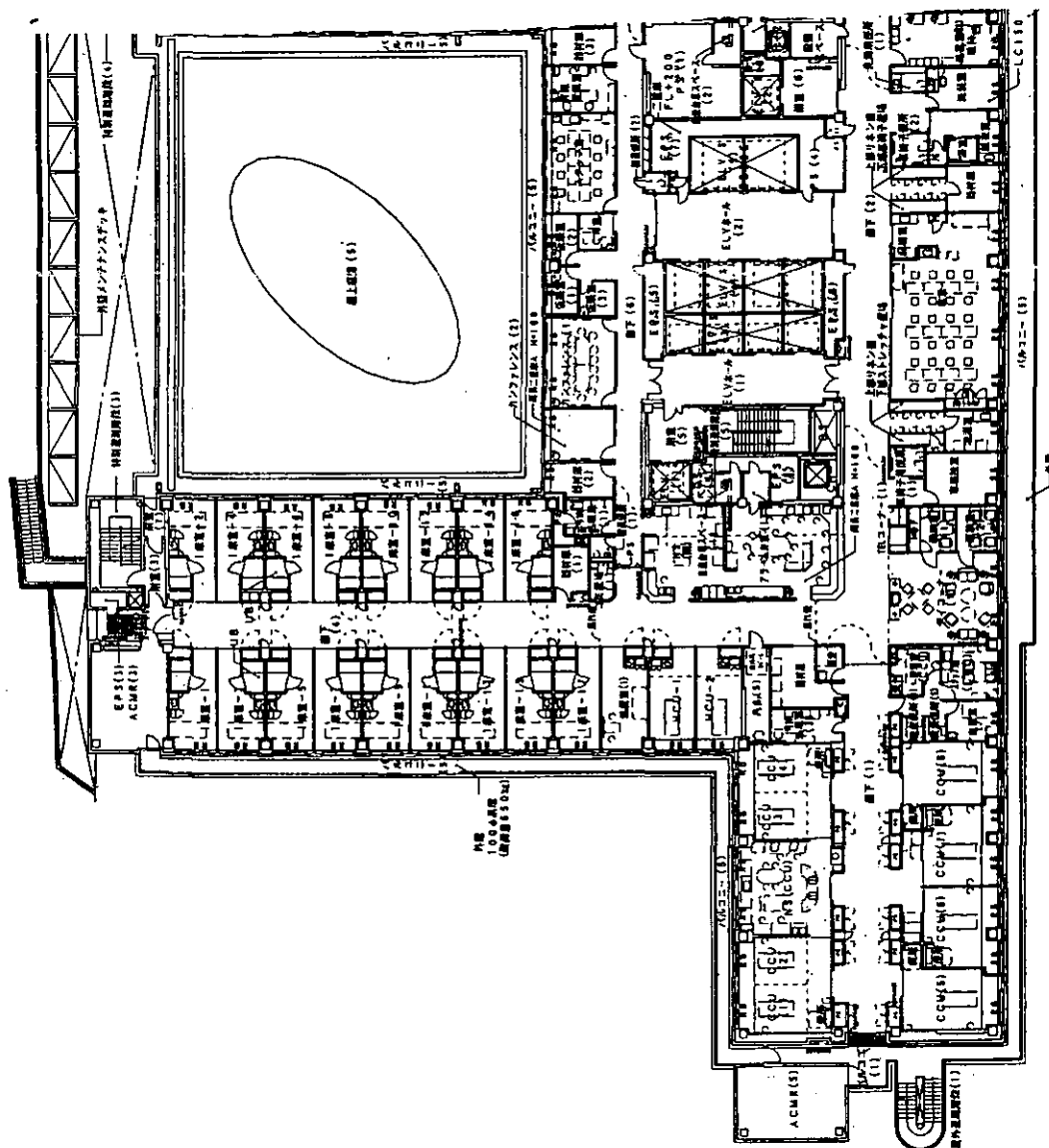
(2) 対象病棟の図面

¹ ただし、本研究の第4章、第5章では、対策の観点からみて、転倒・転落の別を記入と異なる分類で扱った事例があり、集計結果と若干の件数の違いが出ている場合がある。

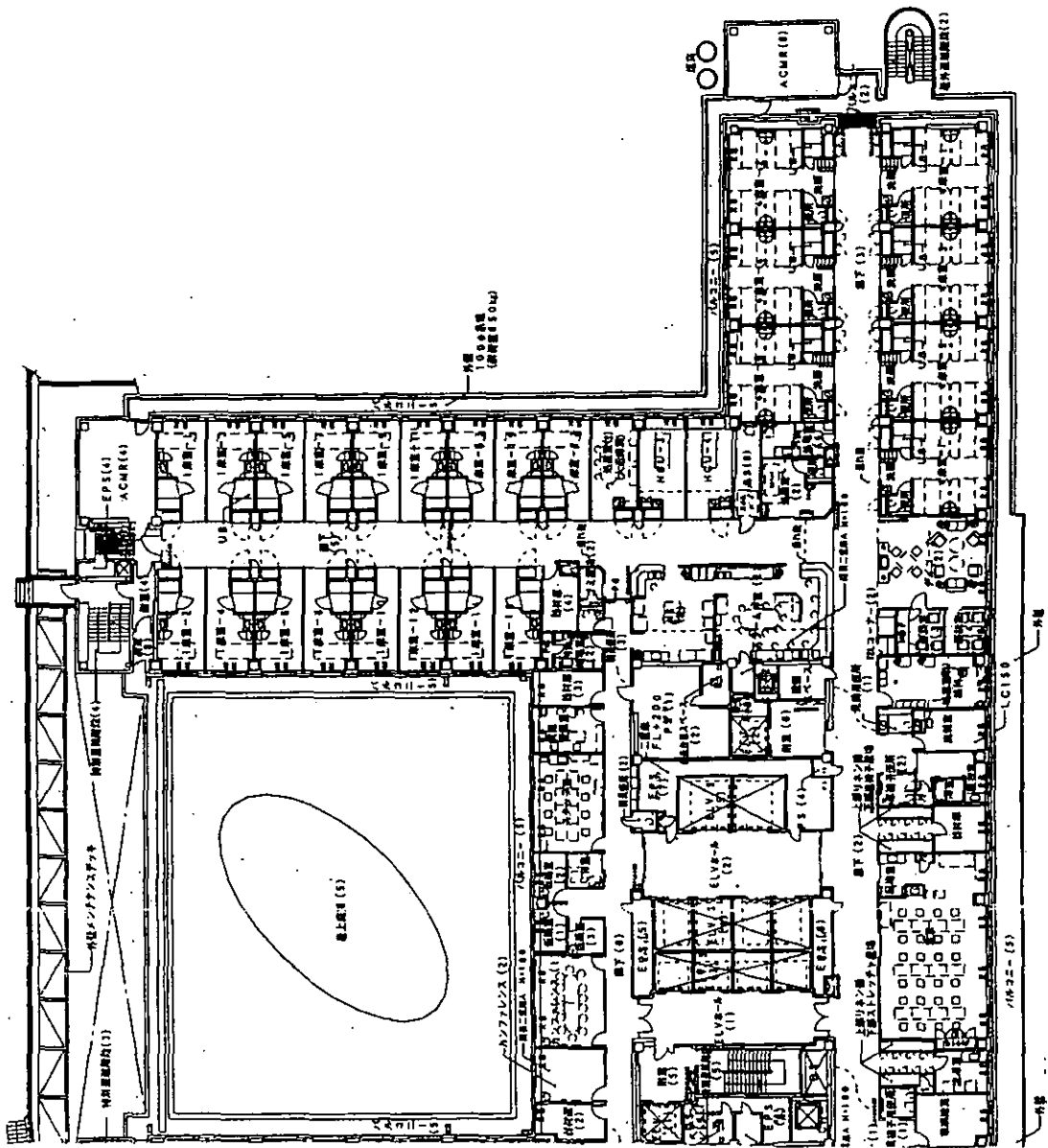
<病棟図面：A病院（精神科）>



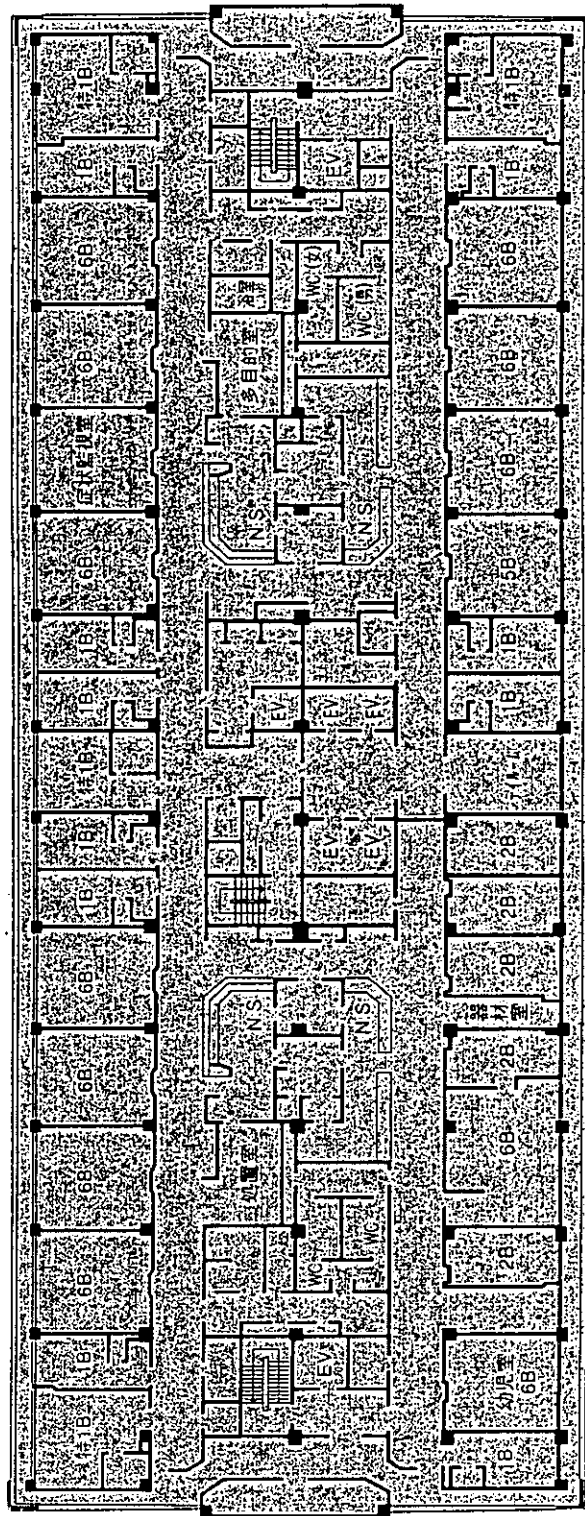
<病棟図面：A病院（循環器・心臓外科）>



<病棟図面：A病院（呼吸器科・ペインクリニック）>



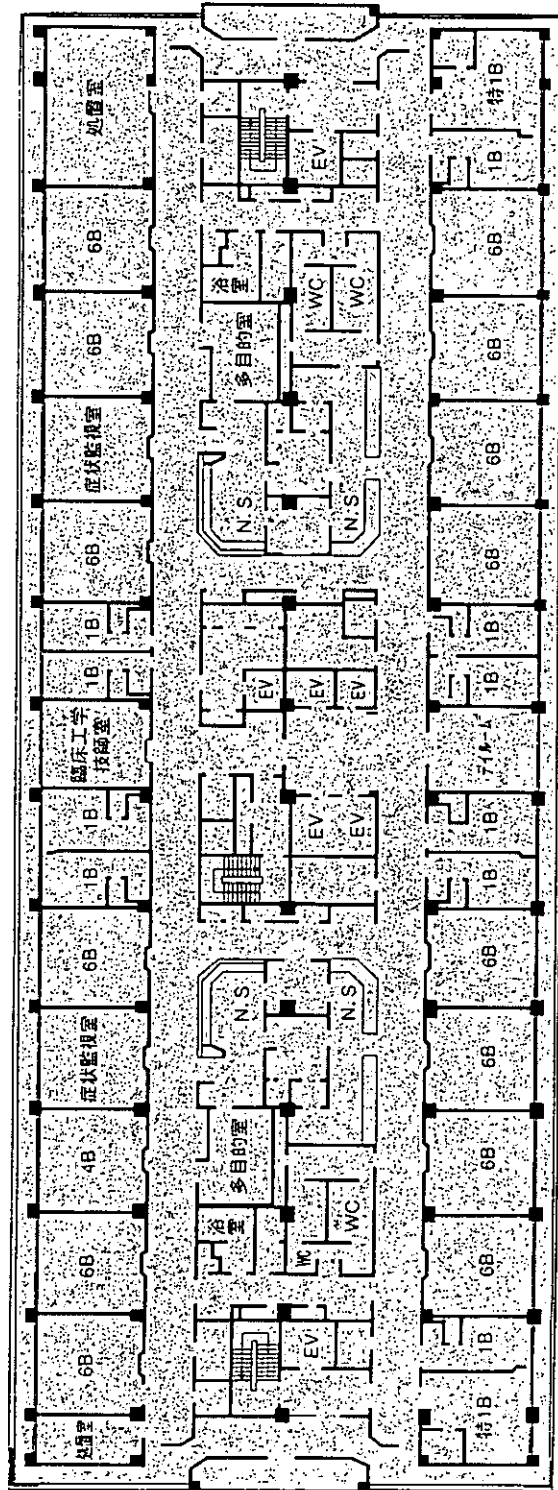
< 病棟図面 : B 病院 (内科系) >



< 内科49床 >

< 内科・小児科49床 >

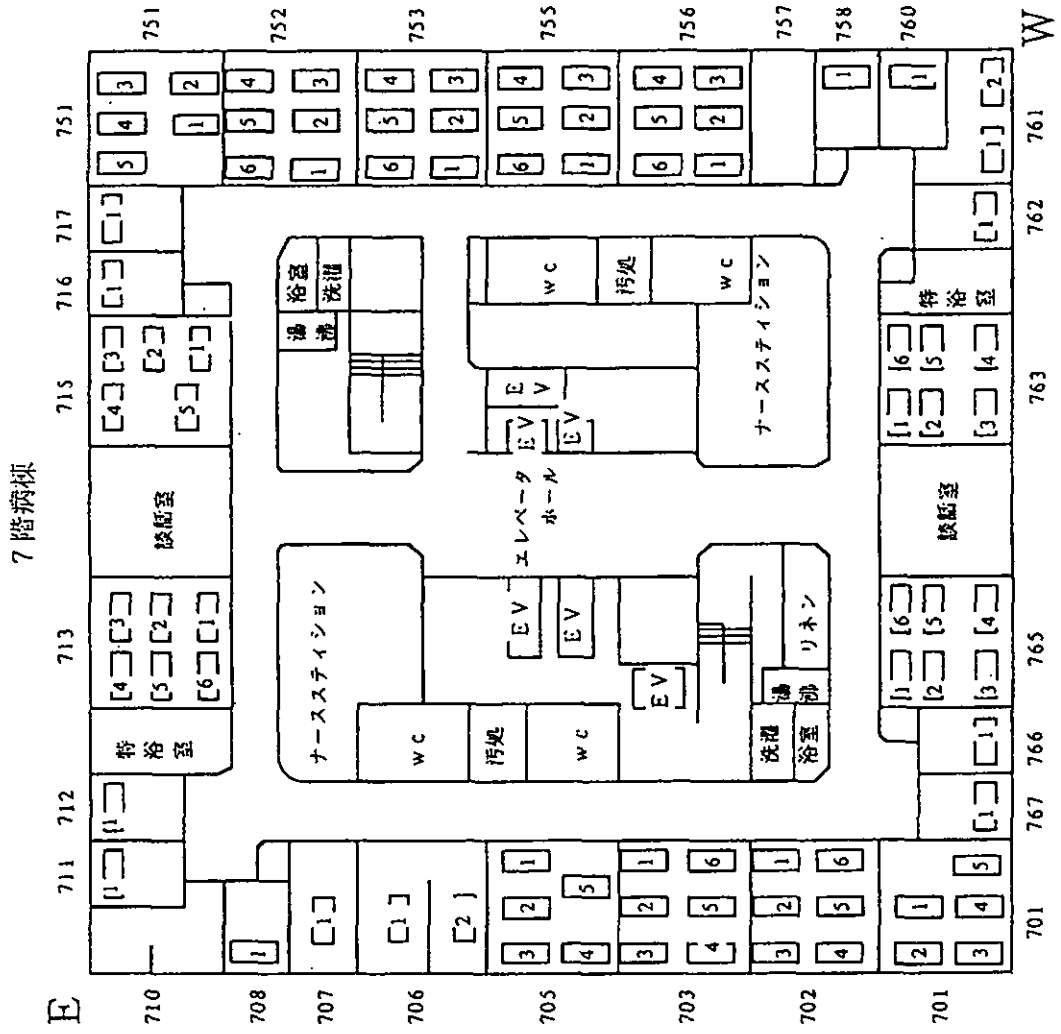
〈病棟図面：B病院（脳外科・整形外科系）〉



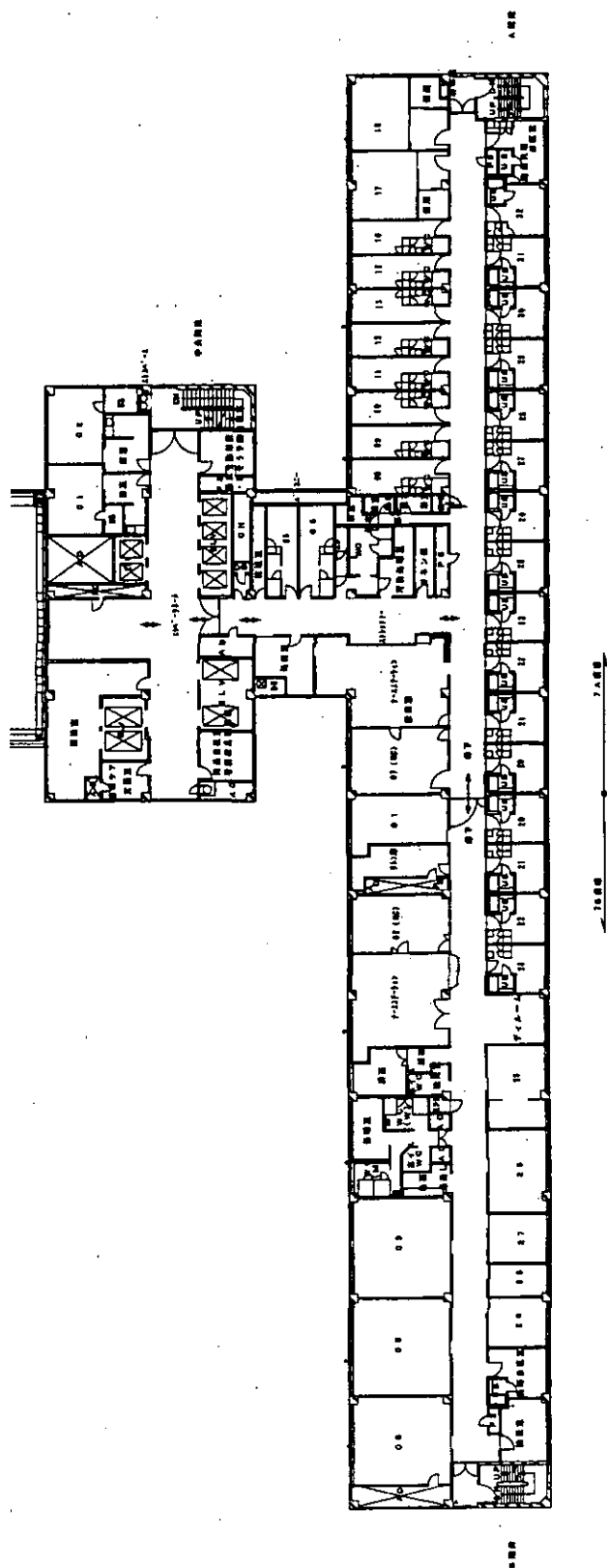
〈脳神経外科・整形外科・形成外科49床〉

〈外科49床〉

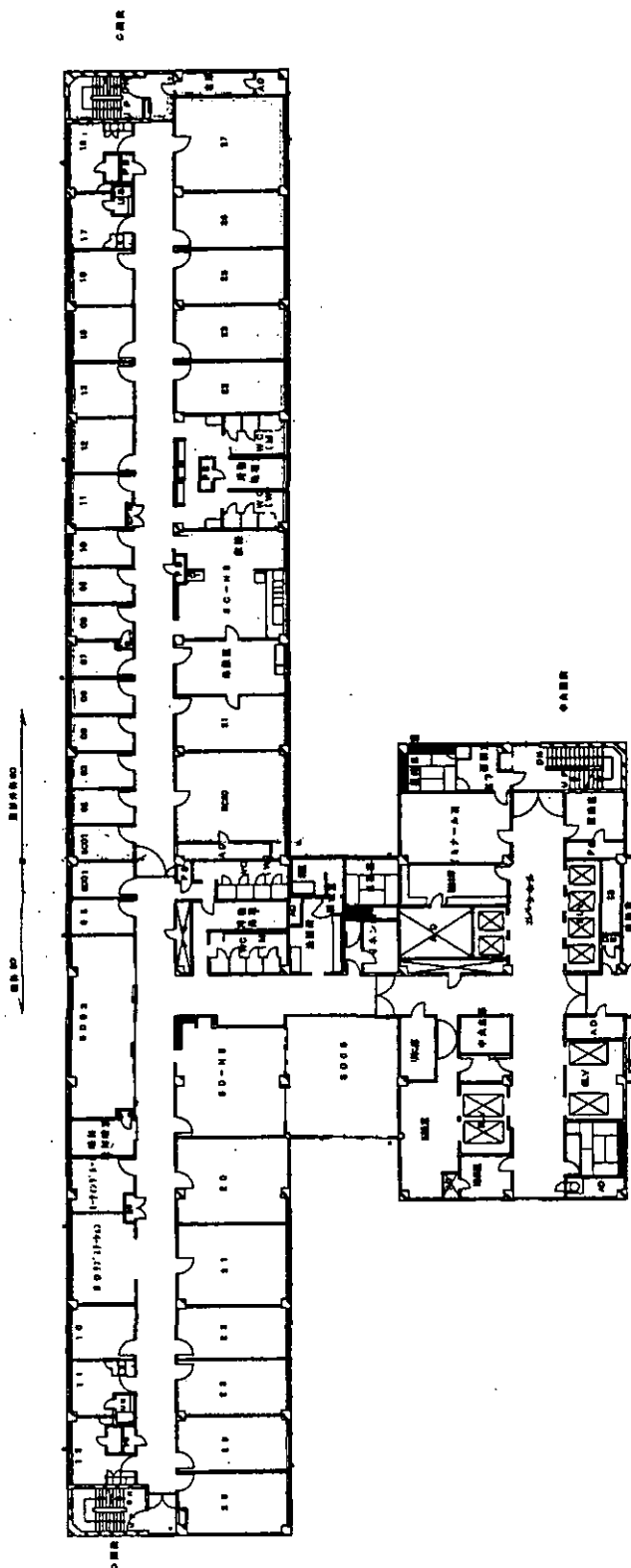
< 病棟図面：C病院（脳外科） >



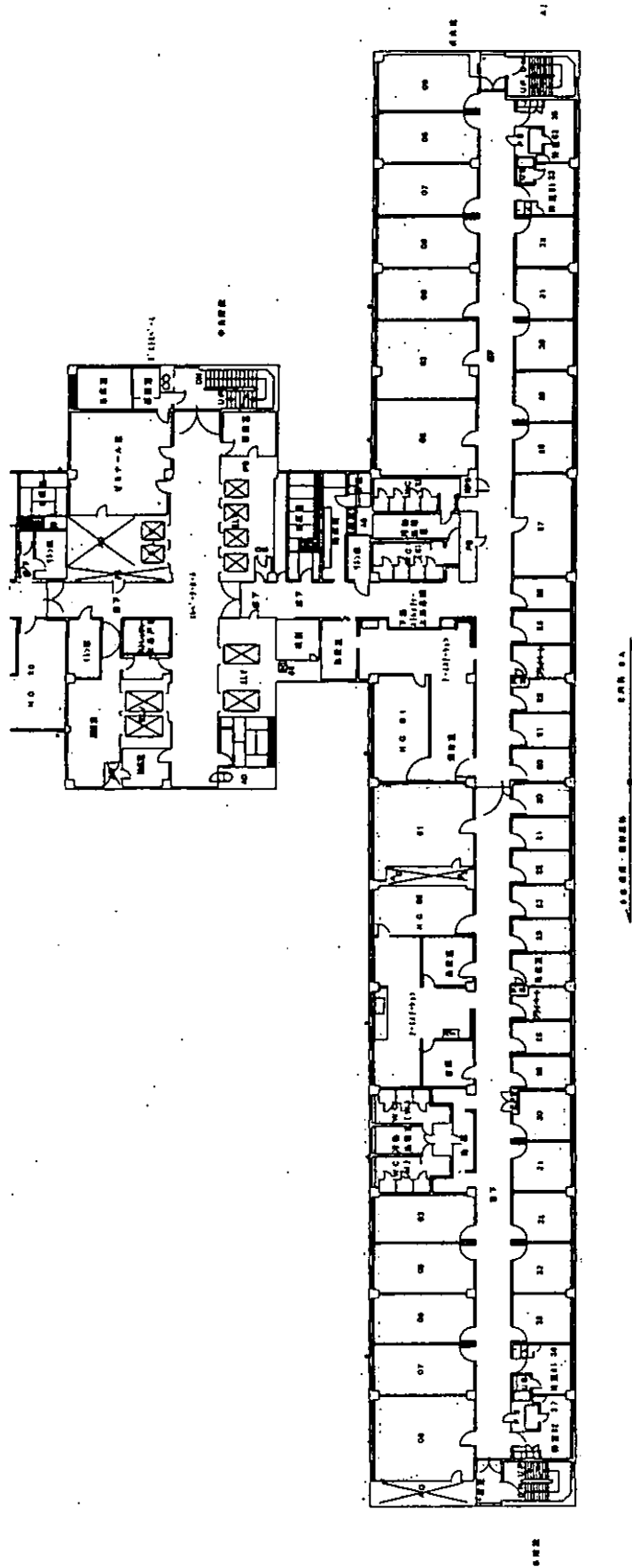
<病棟図面：D病院（神経内科）>



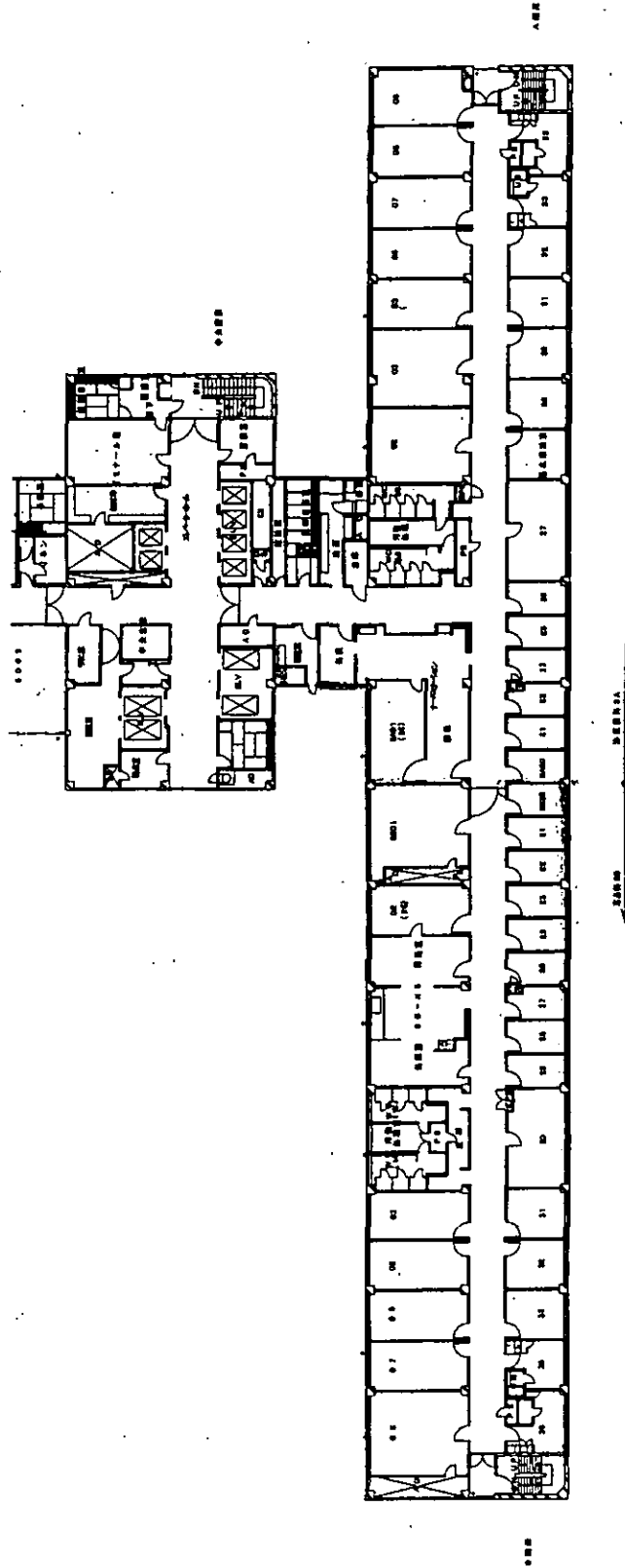
<病棟図面：D病院（整形外科）>



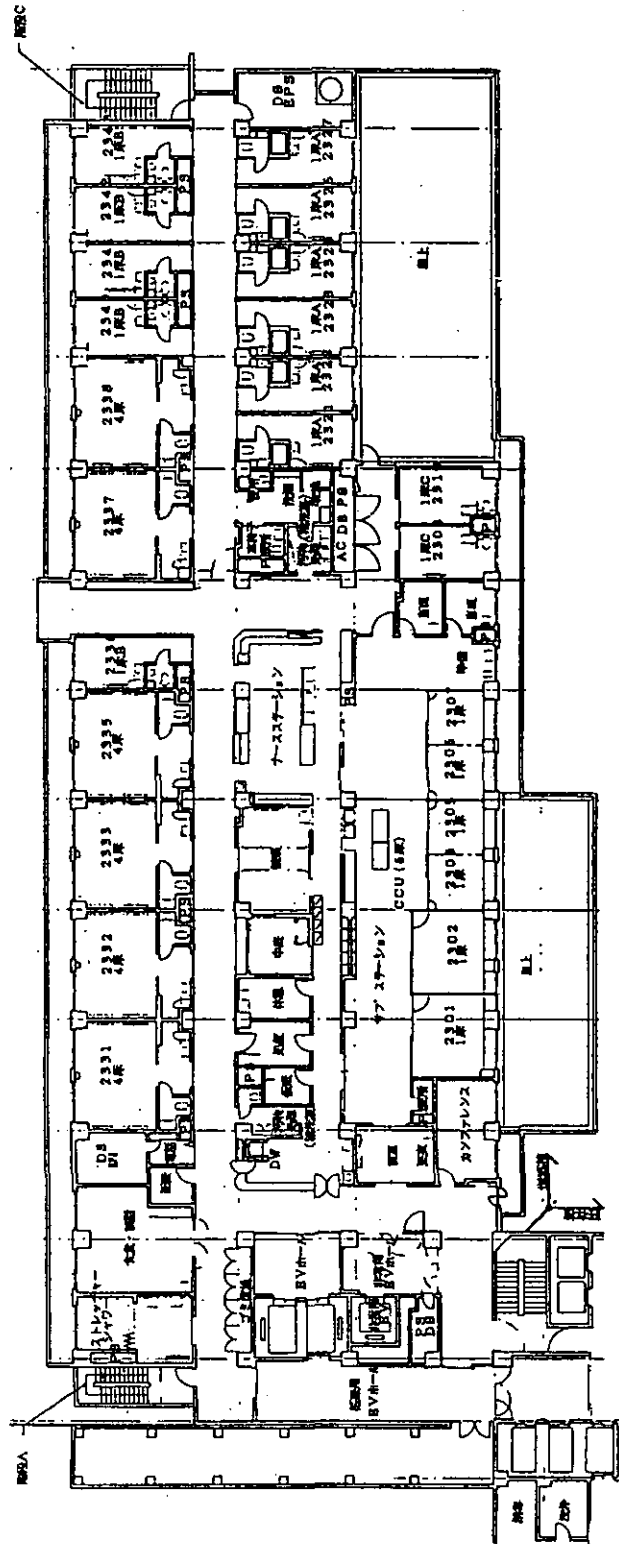
< 病棟図面 : D 病院 (内科系) >



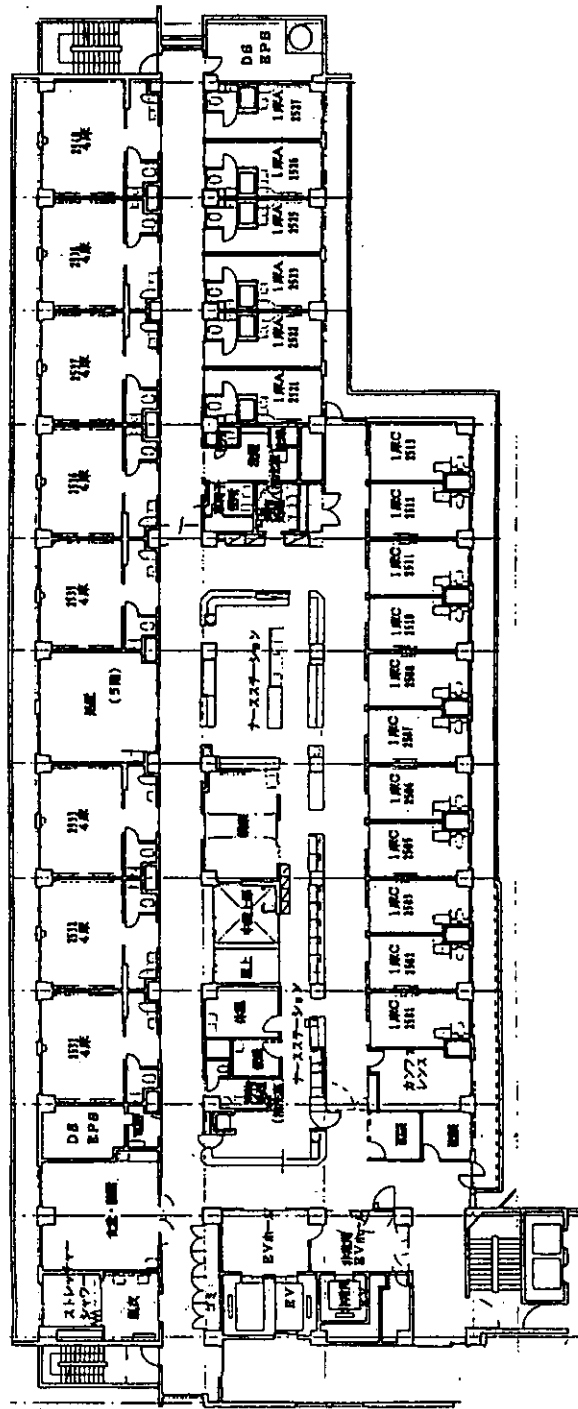
<病棟図面：D病院（外科系）>



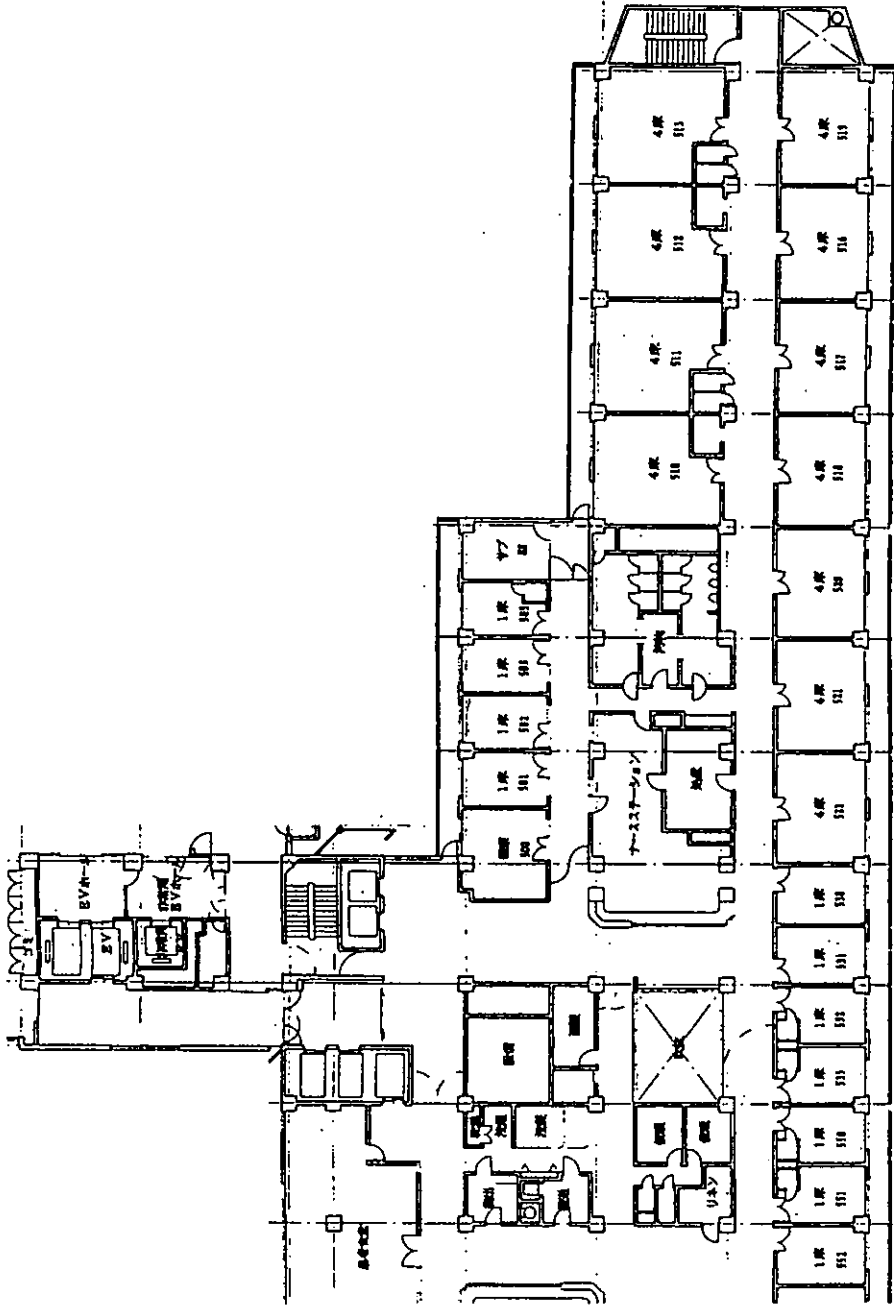
< 病棟図面 : E 病院 (循環器内科) >



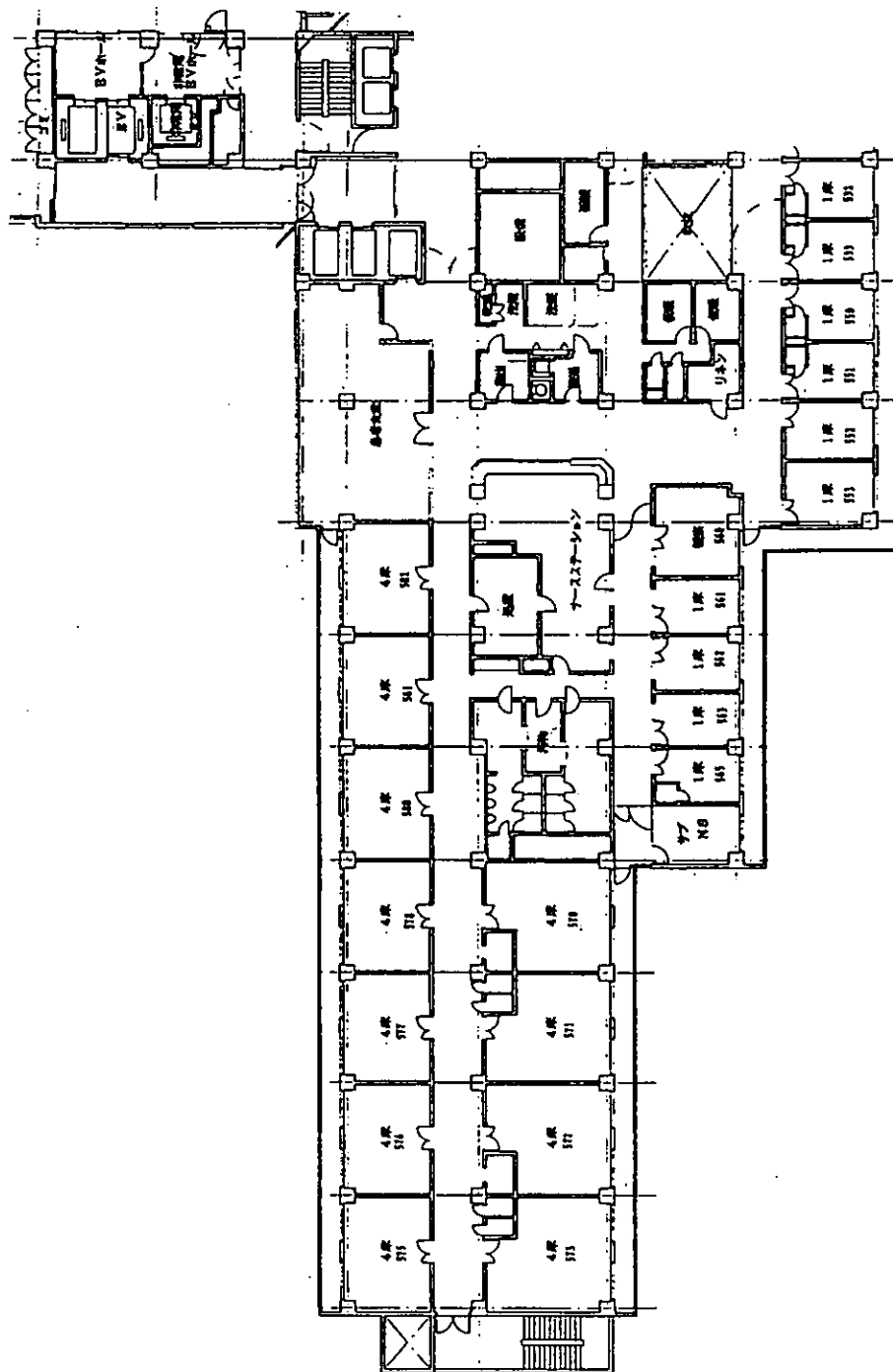
< 病棟図面 : E 病院 (外科) >



<病棟図面：E病院（脳神経外科・神経内科）>



<病棟図面：E 病院（消化器内科・腎臓内科）>



3. 調査項目²

- 1) 転倒・転落に関する基本情報
- 2) 患者属性
- 3) 患者の状態の詳細
 - ・バイタル
 - ・薬剤使用の有無
 - ・認知・理解力の問題
 - ・感覚器に関する障害
 - ・運動機能に関する問題
 - ・失神・けいれん・脱力発作
 - ・過去の転倒・転落経験
 - ・転倒・転落のリスク
 - ・治療目的の装着物
 - ・ナースコールの可否
- 4) 患者の運動・持久能力
 - ・起居動作（腰上げ動作／SLR（straight leg raising）／起居動作能力／端座位／立ち上がり方／移動補助具の使用）
 - ・行動範囲の制限（医師による安静の指示／看護師によるアセスメント／患者の実際の行動）
 - ・トイレ動作（利用しているトイレ／介助の有無／直近の状況）
- 5) 転倒・転落にいたる経過
- 6) 病棟図面
- 7) 原因・背景
- 8) 実施した、もしくは考えられる改善策
- 9) 諸物品に関するデータ
- 10) 当該事例の転倒・転落に関連していると思われること

² 調査票は資料1、2に掲載

4. 調査期間

2003年10月～12月。ただし、調査開始日については、対象医療施設により、一部異なっている。

医療施設名	病棟名（診療科）
A病院	2003年10月6日～12月21日 (ただし、10月1日の発生事例が1件含まれる。)
B病院	2003年10月1日～12月21日
C病院	2003年10月1日～12月21日
D病院	2003年10月1日～12月21日
E病院	2003年10月1日～12月21日

各医療施設に対して、訪問・聞き取り調査を実施した。聞き取り内容は、各医療施設の研究協力者のもとに回収された事例の詳細、それに対する評価や対応、転倒・転落対策について、療養環境全般についてである。

訪問回数、日程は、調査票の回収状況にあわせて異なっており、以下のとおりである。

医療施設名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
A病院	10/10	10/29	11/19	12/10	12/24	—
B病院	10/22	11/7	11/27	12/12	12/25	—
C病院	10/21	11/19	12/25	—	—	—
D病院	10/17	10/30	11/21	12/12	12/25	—
E病院	10/14	10/28	11/11	11/25	12/9	12/22

5. 対象

該当病棟における転倒・転落事例について、遭遇した看護師、病棟看護師長、または研究協力者に調査票に記入してもらった。

6. 調査実施上の倫理的配慮

個人情報の保護のため、患者の氏名、傷病名については把握を行っていない。また、一部患者に聞き取りが必要な場合には、研究協力者から患者に調査の目的等を説明し、同意書を取るとの取り決めを行った。実際には、研究協力者あるいは、調査票の記入者から十分な情報が得られたため、患者に対する聞き取り調査は実施していない。

7. 回収事例数

回収された事例数は、全 118 件である。

第3章 転倒・転落の現状

第1節 調査票調査の結果³

1. 転倒・転落の事例の概要

(1) 転倒・転落の別

転倒・転落の件数は、全 118 件に達し、うち転倒が 94 件、転落が 20 件であった。

	件数
転倒	94
転落	20
転倒・転落の別不明	4
合計	118

(2) 月別 転倒・転落の発生件数

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
10月	39	10	2
11月	48	4	0
12月	7	6	2
無回答	0	0	0
合計	94	20	4

なお、転倒・転落の発生は、調査期間に入院していた患者の性質にも依存するものの、研究協力者は、通常より発生件数が少ないというコメントもあった。

³ ・本調査結果の記述は、全て件数で示しており、割合の表示は行っていない。
・クロス集計の場合、表側の設問の「無回答」については表示していない場合があり、「全体」に示された値は、各層の合計と一致しない場合がある。